

## 平成 24 年度第 4 回（7 月）理事会議事録

- ◇ 日 時： 平成 24 年 7 月 12 日（木）午後 7 時 00 分～8 時 40 分
- ◇ 会 場： 社団法人 大阪府臨床検査技師会事務所
- ◇ 出席者： 運天、竹浦、吉本、荒木、田畑、井戸田、出野、山田、宮野、酒井、栗本、山西、杉山、久保田、後藤、栗本監事、事務（岩崎）
- ◇ 欠席者： 高田、清水、増田、山中監事
- ◇ 議 長： 運天

### 【 討議内容 】

#### I. 行動報告（6 月分）

別紙参照

#### II. 経過報告

##### 1. 日臨技

第 4 回理事会報告（6 月 8 日開催）

- ・ 役員を第 50 回大韓臨床病理学会（2012 年 6 月 27 日～30 日）へ派遣した。
- ・ 支部企画学術研修会 10 万円×7 分野 伝達・実技講習予算内であれば支部企画の追加を認める。
- ・ 平成 24 年度日臨技臨床検査精度管理調査の参加申込みは、3712 件・3680 施設であった。
- ・ 平成 24 年度日臨技データ標準化事業の基幹施設は、165 施設となった。
- ・ 日臨技臨床検査制度管理調査システム使用申請が、13 技師会からあり承認した。
- ・ 理事会の開催は原則第 4 土曜日とし、今年度は 9 月 22 日、12 月 22 日、3 月 23 日に開催予定。執行理事会の開催は原則第 2 土曜日に毎月開催。  
会長専従に伴う住宅費用は日臨技が負担し、その他生活にかかる光熱費は個人負担とする。

##### 2. 近臨技

第 1 回近臨技会議報告（6 月 16 日開催）

- ・ 決算報告があった。
- ・ 近臨技役員として、会長に富永氏、副会長に玉置氏と谷口氏、監事に宗川氏、他 1 名、事務局に真田氏、チーム医療に荻野氏、学術に今田氏、会計に荒木氏が承認された。
- ・ 日臨技支部に対する要望事項を検討した。

##### 3. 事務局

〈総務部〉6 月 20 日（水）に部会を開催した。

- ・ 会計マニュアルについて検討した。
- ・ 賛助会員への対応について検討した。（ホームページの賛助会員名簿を平成 24 年版に更新することとした。）
- ・ Web 版大臨技会報の作成について検討した。
- ・ 大臨技ホームページについて検討した。（公益法人対応のホームページ作りを目指すこととした。）
- ・ 研修会等での受付確認について検討した。（マニュアルの日臨技生涯教育履修登録部分について追加した。）

- ・ 大臨技会員証の再発行について再度検討した。
- ・ 賛助会員の参加受付対応について検討した。
- ・ 大臨技ニュース 6月号を発行した。
- ・ 大臨技ホームページを更新した。

〈会計部〉6月20日（水）に部会を開催した。

- ・ 5月度収支決算書を作成した。
- ・ 事務員6月分給与および夏期賞与を送金した。

〈渉外部〉6月26日（火）に部会を開催した。

- ・ 第1回大臨技・大放技合同フォーラム委員会の報告を行った。  
（第2回委員会は7月4日開催予定。）
- ・ 府民フォーラム（10月28日開催）委員会の報告を行った。
- ・ 第38回献血推進活動（8月25日開催）について検討した。
- ・ 日臨技公益委託事業について説明を行った。  
第3回ガン検診推進フォーラム「子宮頸がん健診 早期発見の決め手」をテーマに10月13日に大阪府医師協同組合会議室にて開催する。当事業の企画書を日臨技に提出することとした。
- ・ 大放技府民公開講座について説明を行った。

#### 4. 事業局

〈情報組織部〉6月21日（木）に部会を開催した。

- ・ 新入会員研修会について広報の方法を検討した。
- ・ 多職種合同チーム医療研修会について内容の再確認を行った。

〈地区事業部〉6月21日（木）に部会を開催した。

- ・ マタニティカーニバル2012（7月7日（土）・8日（日）大阪南港 ATC ホールにて開催）について、最終打合せを行い集合時間や当日の担当を決定した。  
マタニティカーニバルに参加したボランティア数69名、参加人数は21,708名だった。
- ・ 会員交流会について検討した。（10月6日（土）14:00から堺「とれとれ市」にて開催で決定した。）

〈学術部〉6月12日（火）に部会を開催した。

- ・ 第7回学術部講演会について検討した。
- ・ 参加登録に関して検討した。

### III 他、報告

#### 1. データ標準化について（竹浦副会長）

- ・ 今年から、篠原克幸氏（福岡大学筑紫病院臨床検査部）作成のプール血清を使用することとし、150本を購入予約した。
- ・ HbA1cについては、シスメックス社製コントロールの使用を検討中である。
- ・ CBCについては、プレサーベイの状況を確認しながら進める。
- ・ 8月理事会で進捗状況を報告する。

#### 2. 日臨技生涯教育履修について（栗本理事）

日臨技生涯教育研修対象行事の参加登録が、行事開催後1ヵ月以内に登録することとなったことに伴い、「2012年度からの日臨技・大臨技行事登録・受付マニュアル」を変更した。

### 3. 大臨技ホームページについて（栗本理事）

- ・ 公益法人申請に伴い大臨技ホームページのトップページを変更し、一般向けとして「府民公開講座」を掲載し、他職種関係者向けとして「他職種公開講座」を掲載した。
- ・ 今後は、一般向けに日臨技発行冊子「検査のはなし」の内容等の掲載も行ってゆく。
- ・ 「他職種公開講座」の広報のため、他団体ホームページとの相互リンクについても検討する。

### 4. 計画停電について（吉本副会長）

- ・ 関西電力より今夏（7/2～9/7）の計画停電予定スケジュールが発表され、大臨技事務所所在地もその中に含まれる（4-Bグループ）ため、大臨技ホームページにその旨を広報するとともに計画停電スケジュールを掲載した。
- ・ 対策として、関西電力の計画停電お知らせメールサービスに大臨技事務局を登録しており、万が一停電が実施される場合、前日 18 時および 2 時間前にメール配信があるため、配信があり次第大臨技役員メーリングリストにより連絡するとともに対応をとることとした。

### 5. その他

- ・ 大臨技臨床検査技師賠償責任保険の開始日について、平成 24 年度は 4 月と 6 月の 2 回であったが、他府県から新卒者の加入にも対応してほしいとの要望に担当保険会社が対応したため、8 月開始分（申込み期限 7 月 20 日）も設定するとともに大臨技ホームページで広報した。

## IV. 議 題

### 1. 近臨技と日臨技関西支部について（運天会長）

- ・ 日臨技関西支部とは別に近臨技を 2 年間存続させ、その後一体化して行く。
- ・ 近臨技の拠出金については、2 年間無しとする。
- ・ 開催する事業については、日臨技関西支部が主催し近臨技は共催とする。
- ・ 今後の検討課題として、一体化した 2 年度以降に開催される日臨技関西支部主催事業において、日臨技会員以外是非会員扱いになる事について、近臨技のバックアップ体制を考えて行かなければならない。

### 2. 各部の業務について（運天会長）

大臨技各部の事業を遂行するに当たり、業務負担が偏らないようにするとともに代行可能な体制を考慮しながら進めて行くこととした。

### 3. 地域医療推進協議会について（運天会長）

8 月 11 日に開催される平成 24 年度第 1 回大阪府地域医療推進協議会において、当会からの大阪府ならびに大阪市への平成 25 年度予算編成に対する新規要望事項および平成 24 年度要望事項の削除事項はなしとした。

### 4. 業務運用マニュアルについて（吉本副会長）

「会計マニュアル」の簡易版として総務・会計部において作成した「業務運用マニュアル」について討議し、一部文言を変更するとともに研修会等における謝礼の内容について見直すこととし、次回理事会で継続審議することとなった。

### 5. 大臨技会員証の再発行について（吉本副会長）

大臨技会員証の再発行における再発行費 500 円の払い込みについては、郵便局の「払込取扱票（白地に青枠の用紙）」で払い込み、郵便払込み手数料は各自負担することとし、当内容を大臨技ホームページで広報することとした。

6. 賛助会員の参加受付対応について（吉本副会長）

「大臨技事業における参加費等の取り決め（平成 24 年度から）」における賛助会員の定義を、「大臨技賛助会員施設の職員およびそれらの近畿地区支店・営業所職員」とし、証明については、「所属施設の名刺もしくは所属を証明するもの（社員証等）による」こととし、大臨技ホームページ掲載中の当内容を「平成 24 年 7 月 12 日一部変更版」として更新することとした。

7. その他

- ・ 第 23 回生物試料分析科学会年次学術集会（平成 25 年 2 月 10 日・11 日開催）および第 65 回日本臨床化学会近畿支部例会（平成 24 年 10 月 20 日開催）から後援申請があり、承認した。
- ・ 大阪府健康医療部より当会へ「平成 24 年度公衆衛生事業功労者」における表彰対象者の推薦依頼があったが、推薦期限（8 月 17 日必着）が迫っており申請書類を揃えるのが無理との判断で、今回は辞退とすることとした。
- ・ 大阪府健康医療部より当会へ「第 41 回医療功労賞（国内部門）」候補者の推薦依頼があったため、該当者があれば 7 月末までに吉本副会長に連絡することとした。
- ・ 平成 24 年 5 月 19 日に「日本救急検査技師認定機構」が発足したことが情報誌に掲載された。紙面では大臨技の緊急検査部会報告が同時掲載されており、「日本救急検査技師認定機構」の構成団体及び役員が大阪府臨床検査技師会、役員と誤解されやすい。臨床検査技師を対象にした認定であるならば構成団体及び役員は日本臨床衛生検査技師会であるべきで、日臨技認定センター経由で日臨技理事会に大阪から議案提議することとした。また、大臨技の今後の方向性を明確にするため緊急検査技師認定制度責任者と面談する予定である。

以上

理事会議事録確認（署名欄）
